

桜前線は県南から北上していく どこからも咲きそろった桜と鳥海山が望める

出羽丘陵の保呂羽山あたりから流れ下る

芋川は、本荘の新山公園の麓で子吉川と合流し、日本海へ注ぐ。大内と本荘に繋がる十キロほどの川沿いに、二千本の桜が植えられ、残雪に輝く鳥海山を背景に春爛漫の風情が楽しめる。高速自動車道の大内ジャンクションから国道に出て本荘方向へ走ると、観光用に設けられた駐車場の案内が目に入ってくる。

秋田の桜前線は、県南から北上していく。

金浦の勢至公園、本荘公園、子吉川の桜並木など多くの桜巡りをしたが、どこの撮影地からも、咲きそろった桜と残雪の鳥海山が望めるのだ。由利原高原は五月に入ってから咲くが、牧草地に植えられた桜並木は、

朝陽に染められた鳥海山と相まってとても

美しかった。

東北地方の春を象徴する風景として、残雪に輝く山と桜に萱葺民家を加えて撮影したいと、探し回ったことがあった。東北には三千メートルを超える峰は無く、残雪のグラデーションで頂の高さを示せると考えていた。イメージ通りに撮影できたのは、岩木山の麓にあった一軒で、山桜や菜の花などが咲き揃う春爛漫の映像が撮れた。

この春も、桜は早く咲くのだろうか。日本気象協会の予報では、秋田市の開花は四月十一日になっていて、平年より一週間ほど早い。

福島県に三春という町があり、梅、桃、

桜が同時に咲くので、三春と名付けられた

という。「滝桜」という樹齢が千年を超える枝垂れ桜の満開になった光景に、心打たれた。桜を一巡りした人たちは、笑顔になっている。見事に咲いた桜は、微笑みをもたらしてくれるのだ。

冬から春へ。季節が移り変わる中で、桜の開花を心待ちにするこの時期が好きだ。コロナ禍の影響が次第に薄れ、いつもの春になって、動植物はいっせいに動き始める。柔らかな日差しに包まれて新入生は学校に通い、田んぼには水が張られ田植えの準備が進められていく。「芋川桜づつみ」もいつものような花を咲かせ、新緑に染まりながら春の風情になっていくのだ。